

㊫ 就学支援調査票〈在学児童生徒用〉

作成日：令和 4 年 8 月 1 日

ふりがな氏名	かがん さくらこ 河岸 桜子		性別：女	平成 20 年 4 月 2 日生	14 歳
保護者名	河岸 段十郎		学びの場	通常 <small>の</small> 学級	
住所	〒 948 - 0192 十日町市 水口沢 1 2				
保育・教育歴	園・学校名	学びの場	在籍期間		
	あおぞら保育園	通常 <small>の</small> 学級 通常 <small>の</small> 学級+通級による指導（言語） 通常 <small>の</small> 学級 通常 <small>の</small> 学級	H 22 年 4 月	～	H 27 年 3 月
	緑葉小学校		H 27 年 4 月	～	H 27 年 9 月
	緑葉小学校		H 27 年 10 月	～	H 30 年 9 月
	緑葉小学校		H 30 年 10 月	～	R 3 年 3 月
緑葉中学校	R 3 年 4 月		～	年 月	
主な状況	障がいや傾向 ※必ずどれかに✓ (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input type="checkbox"/> 学習障害 <input type="checkbox"/> 注意欠陥多動性障害			
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日常会話はできるが、授業中はたどたどしく、言葉につまることもある。 ・簡単な指示も理解できないことがある。 ・対人関係を築くことが苦手で、集団活動ではひとりであることが多い。 			
	手帳取得状況	<input type="checkbox"/> 療育手帳 () <input type="checkbox"/> 身体障害者手帳 (種 級) <input type="checkbox"/> 精神障害者保健福祉手帳 (級)			
受診歴	機関名	受診期間	担当医	科名・病名・診断名・服薬・治療内容等	
発達検査歴	検査名	実施年月	実施機関	結果	
	WISC-IV	R4.3.1	学校教育課	FSIQ=70 VCI=84 PRI=71 WMI=68 PSI=78	
関係機関	機関名	利用期間	内容		
その他、成育歴・経過等に関する特記事項					
<p>小さいころから、家ではよくしゃべるが、園や学校では言葉数が少なく、人前でしゃべることは得意ではなかった。小学1年生の2学期から、吃音と発音の不明瞭さを主訴に、言語通級指導教室を利用。発音の不明瞭さは改善し、吃音も目立たなくなったことから、小学4年生の2学期に言語通級指導教室を退級した。学習面も小学校低学年の頃から苦手さがあったようだが、まじめにコツコツと取り組み、宿題などもきちんと提出してきた。中学校に入学し、特に数学の苦手さが目立っている。宿題を終わらせるのに時間がかかり、最近は睡眠にも影響が出ているため、宿題の量を調整したり、本人の習得度に応じた宿題を出している。</p>					

児童生徒氏名：(河岸 桜子)

現在や将来の生活についての願い・希望（進路含む）、本人の生活実態における興味関心（得意・不得意）	
本人の願い・希望	言いたいことがうまく言えない。自分の気持ちや考えをきちんと話せるようになりたい。
保護者の願い・希望	家と同様、学校でも自分の考えや気持ちをなんでも伝えられるようになってほしい。勉強に関しては本人のペースでやってもらえれば良いと思っているが、高校には行かせたい。
得意なこと 好きなこと	漫画を読んだり、絵を描くことが好き。（本人） 昔から絵を描くことは得意だった。家ではアニメをよく見ている。（母） 絵を描くことが得意で同級生からも絵の上手さを評価されている。（担任）
苦手なこと 心配なこと	勉強がわからない。特に算数がわからない。（本人） 家ではよくしゃべるが、学校では上手く話せず、言葉がつまる。（母）（担任） まじめに学習に取り組むが、学習の成果が積みあがりにくい。（担任）
運動機能	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の動きがぎこちなく、運動することを好まない。特にボールを使った運動は苦手。 ・部活は美術部に所属。絵を描いたり、細かい手先の操作が必要になる作業などは得意である。
学習状況	<ul style="list-style-type: none"> ・真面目にコツコツと学習するが、それが成果としてなかなか定着しない。 ・そのときは理解するが、時間が経つと忘れてしまうことが多い。 ・計算はうっかりミスが多い。
社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・家ではよく喋っている。日常会話は問題ない。 ・発表時は、言葉に詰まって「あー」「えーっと」と言ったり、言葉が出てこなくなったりすることがある。急かすとさらに話ができなくなってしまう。 ・仲の良い特定の友だちはいるが、自分から積極的に人と関わることは少ない。集団活動となると、ひとりであることが多い。
身辺自立	<ul style="list-style-type: none"> ・身辺自立はできている。 ・課題を終わらせるのに時間がかかり、夜遅くまで取り組み、就寝時間が遅くなることもある。時々授業中に眠そうにしている。
支援必要度	<p>しばしば、個別支援が必要である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わからないと固まってしまうときがあり、その都度個別の指示を与えている。
具体的支援	<ul style="list-style-type: none"> ・課題は必ず提出しなければいけないと思っているが、時間がかかるため、睡眠に影響することがある。その際は本人と相談し、課題量を調整している。 ・理論的思考は難しい。理解が難しいときは、図や絵を使って説明している。
備考	

上記の計画について了承し、確認しました。

進学先や関係機関と連携するために、本計画を必要に応じて開示することに同意します。

令和 年 月 日

保護者氏名

児童生徒氏名：(河岸 桜子)

	検査名	実施年月	結果等
検査等	学力検査	R4.4	NRT： 国語 31 社会 29 算数・数学 23 理科 31 英語 29
	知能検査	R4.4	教研式知能検査 ISS: 30
	チェックリスト	R4.6	学習面： 聞く 13 話す 12 読む 2 書く 2 計算する 12 推論する 12 行動面A： 不注意 4 多動性 0 行動面B： 対人関係やこだわり等 2
運動機能	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の動きがぎこちなく、運動することを好まない。特にボールを使った運動は苦手。 ・部活は美術部に所属。絵を描いたり、細かい手先の操作が必要になる作業などは得意である。 		
学習状況	<ul style="list-style-type: none"> ・真面目にコツコツと学習するが、それが成果としてなかなか定着しない。 ・そのときは理解するが、時間が経つと忘れてしまうことが多い。 ・計算はうっかりミスが多い。 		
社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・家ではよく喋っている。日常会話は問題ない。 ・発表時は、言葉に詰まって「あー」「えーつと」と言ったり、言葉が出てこなくなったりすることがある。急かすとさらに話ができなくなってしまう。 ・仲の良い特定の友だちはいるが、自分から積極的に人と関わることは少ない。集団活動となると、ひとりであることが多い。 		
身近自立	<ul style="list-style-type: none"> ・身近自立はできている。 ・課題を終わらせるのに時間がかかり、夜遅くまで取り組み、就寝時間が遅くなることもある。時々授業中に眠そうにしている。 		
支援必要度	<p>しばしば、個別支援が必要である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わからないと固まってしまうときがあり、その都度個別の指示を与えている。 		
具体的支援	<ul style="list-style-type: none"> ・課題は必ず提出しなければいけないと思っているが、時間がかかるため、睡眠に影響することがある。その際は本人と相談し、課題量を調整している。 ・理論的思考は難しい。理解が難しいときは、図や絵を使って説明している。 		
保護者希望	<input checked="" type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通常の学級＋通級指導 () <input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学級 () <input type="checkbox"/> 特別支援学校 () <ul style="list-style-type: none"> ・高校に行ってほしい思いが強い。 ・母は本人が希望するのであれば、特別支援学級でもいいかもしれないと考え始めている。父は特別支援学級への抵抗がある。 		
校長所見	学びの場の判断	特別支援学級（知的障害）	
	<p>家ではよく話すようだが、学校では自分から人と関わることは少なく、集団になるとやや孤立気味である。特別支援学級（自閉症・情緒）において、人とのコミュニケーションのとり方などを小集団から学習できるとよいと考える。</p>		
専門員所見	学びの場の判断	特別支援学級（知的障害）	
	<p>真面目にコツコツ取り組み、行動上自立つことはないが、一斉指導では理解が難しく、学習面での困難さも強くなってきている。発達検査やNRTの結果からも、本人の知的水準に合わせた学習支援や自立活動（意思表示の仕方、コミュニケーションのとり方、など）が必要と考えられるため、特別支援学級（知的）への在籍が望ましいと考える。</p>		